

1、テーマ

「スマートフォンと依存症の研究」

2、目的

従来の携帯電話からスマートフォンに換えた際に 1 日あたりの使用時間が従来の携帯電話よりスマートフォンの方が長くなったと考えそれに伴い依存症の危険もあるのではないかと考えたからである。

3、仮説

スマートフォンにしてから利用時間が伸びた人の方がスマートフォンにし利用時間が伸びなかった人に対し依存度が高いのではないかと仮説をたてた。

4、調査方法

多摩大生 50 人に利用時間調査 7 問依存度調査 20 問のアンケートを実施

5、実験方法

T 検定（独立したサンプルの t 検定）を行う。

6、結果

今回の実験では仮説でたてたことは求められなかった。

7、考察

今回の実験では、利用時間が携帯電話を使用していたとき伸びなかった人のデータが少なかった可能性がある。

もしアンケートを取った人の数を今回の倍やさらにそれ以上のデータを集めた場合結果がどうなるのか今後の研究の課題にしていきたい